

<秋田市観光クチコミ大使報告>

「2015東北六魂祭 in 秋田」に行きました！

“東北六魂祭”が秋田で開催される日程がホームページに掲載されてから、是非会社の同僚と行こうと思い立って参加者を募ったところ、10名を超える手が挙がり、結局私も含めて14名での旅となりました。

参加者のうち、去年の“竿燈祭り”をメインにした旅にも参加した同僚が8名もいましたが、今回も参加する理由として「東北の主要な祭りを同時に全て観られるのがいい」という声が多かったですね。初参加の皆さんは竿燈祭りとねぶた祭りが狙いだったようです。

《今回の旅程：2泊3日》

東京（東池袋）⇒福島飯坂⇒米沢・上杉神社⇒银山温泉⇒徳良湖（泊）
⇒横手・秋田ふるさと村⇒**秋田市内「東北六魂祭」**⇒鶯宿温泉（泊）
⇒小岩井農場⇒盛岡市⇒東池袋

ワゴン車2台での旅でしたが、運転手の疲労を考えて、最終日以外はできるだけ連続した運転時間を減らし、比較的余裕のある日程での旅にしました。

【東北六魂祭 in 秋田：5月30日】

横手市秋田ふるさと村で佐藤養助七代目の「稲庭うどん」を堪能してから、秋田市には午後1時過ぎに入りました。秋田自動車道もあまり混んでおらず、秋田南ICを降りてからの一般道もスイスイと走れたので、あまり観光客は来ていないのかなあと思いましたが、駐車場所の大町からいざ会場に向かって歩き出したら、だんだんに人の波になっていき、秋田銀行本店を曲がって臨海方面を向いたら沿道に溢れる観光客の多さにまず驚きました。

今回は秋田市役所前の椅子席を予約しようとも思いましたが、同僚の皆さんは屋台村の食べ物も楽しみにしていましたし、秋田市内も歩いてみたいとの要望があったので、集合場所だけ決めてフリーに祭りを楽しもうということにしました。想定外だったのは観光客が多かったことで、屋台村も相当長い行列でとても食べ物にありつける状況になく、また沿道も恐らく朝早くから場所取りをしていたらしく足の踏み場も無いほどの混雑だったことです。

そのような中で同僚の皆さんの印象に残ったのは、ブルーインパルスの曲技飛行でした。ブルーインパルスは我が故郷宮城県にある航空自衛隊松島基地所属のアクロバットチーム

(戦技研究班)で、1964年の東京オリンピックでは代々木の空に五輪の輪を描いたことを覚えておられる方も多いのではないかと思います。(当時は浜松基地所属でした)

今回も秋田市上空で見事な演技を披露してくれましたが、強烈なジェット音とともに青空に残した軌跡はオープニングには十分過ぎるくらいのインパクトがありましたね。

その後、“竿燈”の演技が2回披露されましたが、ほぼ10ヶ月ぶりに観る演技(今回は町内会の竿燈のみとのことでしたが)は素晴らしいものでした。初めて観る同僚達は笛とともに立ち上がった竿燈に早速息をのんで見入っておりました。観客の皆さんは驚嘆して声も無く見入っておりましたが、2回目の演技で竿燈が倒れた時の悲鳴ともつかぬ歓声は竿燈祭りの醍醐味でしたね。(演技者の皆さんには怒られるかも知れませんが)

私も通算6年間の秋田勤務で何度も竿燈を観ていますが、何度観てもいいものですね。



オープニングのブルーインパルス。
東京オリンピックを思い出しました。



竿燈は何度見ても素晴らしいです。
同僚たちも感激していました。



秋田文化会館横の駐車スペースにて(左から2番目が私です)

竿燈の演技後はパレードが始まり、秋田・竿燈、岩手・さんさ、宮城・雀踊り、福島・わらじ、山形・花笠、青森・ねぶたの連続した演技はさすが東北六魂祭というものでした。同僚達は最前列には行けなかったものの、一眼レフ・デジカメ・携帯写メ等を抱えて、パレードを最後まで食いつくように観ていました。「ああ～、連れてきて良かった」と思える瞬間でしたね。



仙台のすずめ踊り。盛り上がりましたね。



青森ねぶたはさすがの迫力でした。

本当はこれまでの東北六魂祭では無かった夕暮れに映える竿燈の灯りや光輝くねぶたも観たかったのですが、翌日の旅程を考慮してまだ明るい18:30頃には会場を後にしました。それでも同僚の皆さんからは「素晴らしかったね」という評価をいただきました。

我が故郷、宮城県気仙沼市も東北大震災の復興まもなく、家を失った多くの同級生達とも連絡できない状況が続いていますが、これからも東北六魂祭を続けていただき、震災で亡くなった皆様への鎮魂の祈りと復興の願いを込めていただければと思った次第です。

何もお手伝いできませんでしたが、秋田商工会議所をはじめ、秋田県庁、秋田市役所等関係者の皆様におかれましては、本当にご苦労様でした。